鉄骨工事 Q&A	耐火被覆	鉄骨のさび	制定	2011年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. さびはどの程度まで耐火被覆吹付け施工上問題にならないか？

A.
耐火被覆の下地処理として、鉄骨工事技術指針・工事現場施工編では「耐火被覆材の接着性を確保するために、鉄骨面に対する素地調整2種（電動工具や手工具の併用によるさび落し）を適用して、鉄骨表面に生じた浮きさびを十分に除去したのちに、耐火被覆を施工する。また、鉄骨部材の下端などでははく落防止の措置を講じる必要があるかを検討する」と記載されています。しかし、さびの程度まで踏み込んだ記載はありません。
一方、「吹付けロックウール被覆耐火構造施工技能ハンドブック」（ロックウール工業会）ではもう少し踏み込んだ記載がありますので以下に紹介します。

1.鉄骨表面に黒皮が残り、さびが見られない場合
→ 吹付け施工上全く問題ありません。

2.鉄骨内部へさびが侵食しておらず、鉄骨の表面のみ微粒子状のさびが見られる「赤さび」発生の状態
→ 吹付け施工上問題ありません。

3.赤さび発生が激しく、浮きさびの発生有無を判断し難いような場合
→ 鉄骨表面をブラッシングして吹付け施工するのが望ましいと考えられます。

なお、半乾式吹付けロックウールのようなセメントをベースとした材料を吹付ける場合、塗料によっては付着性に影響を及ぼす恐れがあるので、耐火被覆材と塗料の相性や剥落防止措置の検討など事前に十分な検討が必要であることに注意してください。また、吹付け直後に水に濡れるとセメントが流れ剥離する恐れがあります。

吹付けロックウール施工状況

出典：（一社）日本建築学会_鉄骨工事技術指針・工事現場施工編、2018
ロックウール工業会：吹付けロックウール被覆耐火構造施工技能ハンドブック